

令和２年度 第３回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和２年６月８日（月）	教 育 長 坂 元 裕 人	教育総務課長 鹿 屋 勉
午後２時００分	教 育 委 員 田 原 正 人	学校教育課長 今 井 誠
↓		
午後３時３０分	教 育 委 員 葛 迫 幸 平	社会教育課長 紺 屋 昭 男
第２研修室	教 育 委 員 田之上 厚美	国体推進課長 米 田 昭 嗣
	教 育 委 員 福 里 由 加	

会 議 要 旨

１ 開 会

定刻、定足数に達しており、令和２年度第３回教育委員会定例会を開会した。
議案第１０号は、非公開審議とする旨、教育長から発議があり全会一致で議決された。

２ 令和２年度第２回定例会会議録の承認

承認

３ 議 事

報告第１７号 令和２年度垂水市一般会計補正予算（第３号）案についての市長への
意見申出について

報告第１８号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について

報告第１９号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について

報告第２０号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について

報告第２１号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について

議案第１０号 令和２年度垂水市立学校評議員の委嘱について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第17号 令和2年度垂水市一般会計補正予算（第3号）案についての市長への意見申出について	令和2年度垂水市一般会計補正予算（第3号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第18号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について	垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 （任期）1年	特記事項なし	
報告第19号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について	垂水市教育支援委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 （任期）1年	特記事項なし	
報告第20号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について	垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 （任期）1年	特記事項なし	

報告第21号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について	垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 (任期) 2年	特記事項なし	
議案第10号 令和2年度垂水市立学校評議員の委嘱について	令和2年度垂水市立学校評議員を委嘱しようとするものである。 (任期) 1年	特記事項なし	承認

議 事 内 容 等

3 議 事	
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	報告第 17 号 令和 2 年度垂水市一般会計補正予算（第 3 号）案についての市長への意見申出について 補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したことを報告するとともに、その内容について所管ごとに説明。 （垂水島津家墓所看板作成業務委託の補正予算に関連して、社会教育課長に対して墓所管理、駐車場等の状況についての質問あり。）
学校教育課長	報告第 18 号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。
田原委員	給食費の未納問題も当審議会で審議するのか。
学校教育課長	未納の状況は、プライバシーに配慮したうえで審議会に報告している。
教育長	給食費未納の問題はどの市町村でも大きな問題であるが、幸いなことに垂水市の収納率は高く、98～99 パーセントはあると思う。ちなみに給食費を無償化にすると、年間 5,000 万円ほどの経費を要する。
学校教育課長	報告第 19 号 垂水市教育支援委員会委員の任命について 垂水市教育支援委員会委員の任命について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。
教育長	昨年の反省として、審議件数が多く 1 日で終了できなかったという問題があったが、本年度は大丈夫か。
学校教育課長	本年の対象件数は昨年と同等数あるため、日程を 2 日間設定し余裕をもって審議できる体制で計画している。
学校教育課長	報告第 20 号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。
教育長	特別支援に対する保護者の意識はどのようなものか。
学校教育課長	以前は、支援学級に入れるというだけで抵抗を示す保護者もいて、中に

	は支援学級での対応で十分なのに養護学校を希望するケースもあった。今は各学校一人でも対象者がいた場合、新しく学級を設置することになっている。近年は、子どもに不利益が生じないようにいろいろな整備を実施しており、保護者の意識もだいぶ変わってきている。
田原委員	いったん特別支援学級に入った児童が次の学年に進級するとき、どういう対応になるのか。
学校教育課長	年度ごとに就学検査を実施しており、判断の基準がある。ただ、最終的には保護者の判断を尊重したうえでの決定となり、直前で翻意するケースもあるため判断は難しく、慎重な対応が必要となっている。
福里委員	最近、相談対象と思われる子どもたちが増えている。
学校教育課長	福里委員には常に情報をいただいております、ありがたい。
社会教育課長	報告第 21 号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員委員の委嘱について 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。
教育長	IT の時代に 16 ミリ映写機とか馴染みがあるものなのか。
社会教育課長	幼稚園の利用は多い。子どもたちは、暗闇の中で目を輝かせて映像に見入っている。
福里委員	私の保育園では、映写機やフィルムを借りて子どもたちに見せている。みんな喜んで見ている。
	議案第 10 号 令和 2 年度垂水市立学校評議員の委嘱について (非公開)
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告

教育長	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	「6月2日（火）学校訪問（垂水中央中学校・柊原小学校）について」 久々に学校に行って新鮮であった。コロナ禍のため制約がある中での訪問となったが、校長の熱い思いが聞けて頼もしく感じた。 中央中では、個々の先生方の授業力の差が出てきているという表現があったが、これまで特別な存在だと思っていた中央中が、普通の学校と同じ悩みを抱えているのだなと感じた。それだけに、「中央中プライド」を生徒たちだけではなく、教師にも持ってほしいと思った。 校長に授業力の差を言われることは、教師としてのプライドが許さないのではないかと。新人であろうがベテランであろうが、同じ教科であれば誰がやっても同じようなレベルで授業ができるというお互いが切磋琢磨する研修体制が職員の中から生まれてこないといけないのではないかと、そういった気持ちが欲しいと思ったところである。 柊原小学校については、綿密な教育計画が細部にわたって計画され継続されて、家庭や地域も巻き込んで少々問題のある児童も親もみんなで温かく包み込んでしまう、とてもアットホームな学校を作り上げていると感じた。 校長の思いをしっかりとフォローして動き、他の先生方を動かしている若い教頭の手腕も素晴らしいと思った。
葛迫委員	「5月11日（月）松ヶ崎小学校、19日（火）境小学校での絵画指導研修について」 松ヶ崎小学校と境小学校で、先生方を対象に絵画を描くための実技演習と指導方法についての研修を行った。 実技演習では、色の三原色を使って中間色を自分で作ってみるということを提案したところ、先生たちは初めてなのかいろいろ試行錯誤しながらやっておられた。 いろいろな色を混ぜて、橙色・緑色・紫色・肌色・茶色・灰色など自分独自の色を作ってみる。そして、先生たちが興味を示せたこと、楽しいと思ったことを子どもたちに伝える。子どもたちに絵を描くことを飽きさせない工夫が必要であることを伝えた。 次に指導方法では、子どもたちが今まで描いた絵を見ながら、題材や構図、着色についてどう教えればいいのか、どのように描いていけばいいかということ指導した。 絵は地域によって描く場所や題材が変わってくるものだが、両校とも牛根地区なので、地区で栽培の盛んな「びわ」を題材にしたものが多くなる。 その他に、松ヶ崎小学校では、道の駅や埋没鳥居、居世神社など多くの文化財、そして、境小学校では境漁港や酒蔵などの働く現場をモチーフとしたものが考えられる。各学校で特色のある題材をテーマにすれば子どもたちの心を動かし、描くテーマとなるのではないかと。作品の中で子どもたちが何を描きたいのか、何を言いたいのか、描きたいテーマを大きく描い

田之上委員	てほしい、自分のつくった色で着色してほしいということを伝えてきた。 1 時間 15 分程度の研修だったが、先生たちのいろいろな質疑応答があり境小学校では時間オーバーになってしまった。先生たちからの様々な質問が、子どもたちへの素晴らしい指導につながってくれたらと思うことだった。 「学校訪問について」 学校が再開して 3 週間あまり。訪問した両校では、実情に応じた運営をされていると思うことだった。 清掃が行き届き、教室や廊下もきれいに整理され、子どもたちの目標や作品等が掲示されていて、学校生活の日常を取り戻しているかのようだったが、環境作りが子どもたちの心の安定につながっていくのだろうと思いつつも、消毒を始めとして先生方のいろいろなところへの配慮は大変なことだろうと改めて思うことであった。 児童生徒には、生き生きとした表情で学校生活を送っている様子が感じられ、安心することであった。ただ、学習の遅れや心の悩みを抱えるなど個々に配慮が必要な子どもたちへは、引き続き対応をお願いしたい。 「絵本の読み聞かせ・学童保育について」 今年度も毎週月曜日の朝、垂水小学校の 1 年生の教室で絵本の読み聞かせの時間をいただいている。 子どもたちは、学校にも慣れてきて楽しく過ごしているようだ。今年の子どもたちは明るく、絵本も楽しんでくれて、とても明るい雰囲気の学年である。1 週間の始まりに楽しい時間を過ごすことができありがたく思っている。 学童保育については、垂水小学校には 2 学級分あり、30 人ほどの子どもたちが常時利用していて密な状況となっている。コロナ対応の状況がいつまで続くのか分からないが、消毒、手洗いの励行、マスク着用を徹底していきたい。
福里委員	「学校訪問について」 私自身、垂水中央中学校には初めて行ったが施設のきれいなことにびっくりした。中学生の授業を参観するのも初めてだったが、どのクラスも落ち着いて授業を受ける姿がすごいと思った。先生方が生徒のためにあらゆる方面で工夫して頑張っている姿があり、息子が中学生になるのが楽しみとなった。 校内には、重点課題の解決のために「分からないことが分からないと言える関係」、「つらいことがつらいと言える関係」、「頑張ったことを頑張ったと認め合える関係」と書いたものがあつた。なかなかうまく行かないと思うが、この 3 点が達成できると生徒も自信を持って成長できるだろうなと感じた。 柊原小学校は、前々から地域と密に連携を図り、地域みんなで子どもた

教育長	ちを育てているイメージがあったが、まさにそのとおりであった。 田之上委員から言われて気づいたが、校内階段の壁や足下の部分に、ことばの意味や季節を表す表現など、国語関連のカードがたくさん張っており、感心した。 最近のことばを知らない子どもが多くなっていて、私の子も私が普通に使っていることばの意味が分からないことがある。そんなことを思い浮かべながら、校長の密な計画とそれを達成するための先生方の努力をすごく感じた。 授業でも小規模校を生かし、子どもたち一人一人の発言やことばを丁寧に取り上げ、大切にしている様子がとても印象的だった。子どもは自信を持つとできないこともできるようになる。ことばを認めてもらえることでその子の自信につながるのではと思った。 また、校長の話の中で、子どもたちは校内ではできる挨拶が校外ではできないとあった。私も地域の挨拶立哨に参加することがあるが、こちらが挨拶をしても挨拶をしない子どももいたりする。 実際、大人の私でも不審者に間違えられるのではないかと思い、挨拶を躊躇する時があるので、挨拶は基本中の基本というものの、身につけるのはなかなか難しいのかなと感じた。 「学校訪問について」 教育委員には、6月2日の学校訪問に参加していただき感謝する。先ほどから委員の皆さんが言われている評価のとおりだと思う。 田原委員の言われた「教師としてのプライド」。その先にあるのは「プロの教師」であろうかと思うが、先般の学校訪問でも分かるとおり、プロたる教師は少なくなってきたと感じる。 今は、小学校も中学校も問題解決的な学習が基本である。めあてがあって、それに対する子どもたちの考えを出し合い、まとめをしていくという流れができていっているかどうか、授業を見れば歴然としている。 基本を前提としてきちっとやることが良い授業のスタートだろうと思っているが、そのための教材研究というものがなかなか身につけていない。かつてはそれぞれ自分のやり方で教材研究をして、子どもたちにどのように与えてどのように考えさせて自分の答えを出していくのか、シミュレーションしてやっていたものだが、教材研究のやり方を知らない教師もいる。これは指導上の課題と思っている。 それと、「きっかけ」ということば。先ほど福里委員が言われたように、教師の何気ないひと言が子どもたちの自信につながったりする。「きっかけ」をタイムリーに言える教師がどれほどいるのか、それができる教師がプロと言われるものであろう。 授業を楽しめる教師が何人いるのか。葛迫委員が言われたように絵を描くことを教師が楽しいと思うこと、その楽しさを子どもたちに伝えることこそが大事であるということ、委員の皆様の発言を聞きながら思ったところである。
-----	---

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長 6 閉 会	「梅雨について」 ある評論家が、今年の梅雨を「メリハリ梅雨」と評していた。降るときにはものすごく降る、これまでの状況を見るとそのとおりとなっている。今年の梅雨は怖い、要注意である。近年は台風も大型化しており、子どもたちの安全のため、併せて気を付けていきたい。 「議会について」 6 月議会は、新庁舎問題とコロナ対応がメインとなっている。教育委員会に対する一般質問もいつにもなく多くなっているが、中でもコロナの対応、第2波・第3波への備えをどうするのかという質問が多い。 そのことについては、近々開催する校長研修会・教頭研修会でも協議題として話し合う予定としている。子どもたちのために何ができるのか検証しながらやっていきたいと考えている。 4 課長から5月9日から6月8日までの主な行事等の実施状況について報告するとともに、7月16日までの行事予定についてお知らせした。
---	--